

ご使用の前に以下のものがそろっていることをご確認ください。
万一、不足品がありましたら弊社のプロオーディオ営業部までお知らせください。

付属品

共通	付属品	数量	チェック欄
	取扱説明書	1部	✓
	保証書	1部	
	アドレスシート（お問い合わせ先）	1部	
	ラックマウントアダプター	2個	
	ラックマウントアダプター取付用ビス（ポリブクロ入り）	6個	
	BNC-BNC コネクター	2個	
	BNC-BNC 延長ケーブル（57cm）	1本	
	BNC-BNC 延長ケーブル（41cm）	1本	
	1/2λ ホイップアンテナ	2本	
	ACアダプター	1個	
ATW-3110bJ のみ	ギターケーブル	1本	
ATW-3141bJ のみ	マイクホルダー（変換ネジ付き）	1個	

（改良などのため予告なく変更することがあります。）



株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市成瀬2206 http://www.audio-technica.co.jp

PRINTED IN CHINA 232304190B 2010.7

取扱説明書



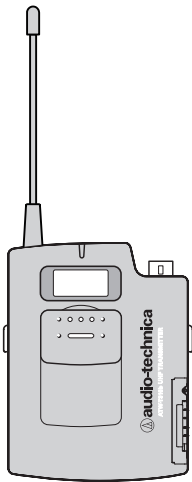
800MHz帯

UHF WIRELESS SYSTEM



WIRELESS RECEIVER
レシーバー

ATW-R3100bJ

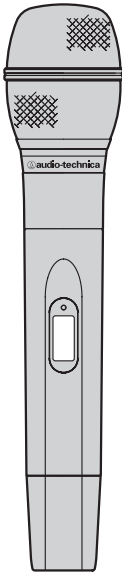


WIRELESS TRANSMITTER
2ピーストランスミッター

ATW-T310bJ

無線局免許不要（特定小電力型ラジオマイク）

別売：単3形乾電池×2、接続用マイク



WIRELESS TRANSMITTER
ワイヤレスマイクロホン

ATW-T341bJ

無線局免許不要（特定小電力型ラジオマイク）

別売：単3形乾電池×2

お買い上げありがとうございます。

本機は800MHz帯のワイヤレスシステムです。ご使用前には、取扱説明書を読み、正しくお使いください。

また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

なお、付属品の有無確認は最終ページをご利用ください。

目次

1.0 特長 3

1.1 システムの特長 3

1.2 ATW-R3100bJ（レシーバー／受信機）の特長 3

1.3 ATW-T310bJ、ATW-T341bJ（トランスミッター／送信機）の特長 3

2.0 安全上の注意 4

2.1 ATW-R3100bJについて 4

2.2 ATW-T310bJ、ATW-T341bJについて 4

2.3 使用上の注意 5

2.4 乾電池について 5

2.5 ACアダプターについて 6

2.6 メンテナンス上の注意 6

3.0 複数のワイヤレスシステムを同時に使用するには 6

4.0 ATW-R3100bJ 各部の名称と機能 7

4.1 正面部 7

4.2 背面部 7

4.3 LCD表示部 8

5.0 ATW-R3100bJ の接続方法 8

6.0 受信機使用時の設定 9

6.1 LCD表示の設定（通常モード） 9

6.2 設定メニューの選択（メニューモード） 9

6.3 受信チャンネルの設定（設定モード） 10

6.4 空きチャンネルのスキャン（設定モード） 11

6.5 ANT POWER アンテナ電源供給の設定（設定モード） 12

6.6 スケルチレベルの設定（設定モード） 13

6.7 RF/AFレベルメーターのホールド設定（設定モード） 13

6.8 ハイパスフィルターの設定（設定モード） 14

6.9 出荷時の設定に戻す場合 14

6.10 メニューモードの終了（設定モード） 14

7.0 ATW-T310bJ、ATW-T341bJ 各部の名称と機能 15

7.1 本体 15

7.2 LCD表示部 16

8.0 乾電池の入れかた 16

8.1 ATW-T310bJ の乾電池の入れかた 16

8.2 ATW-T341bJ の乾電池の入れかた 16

8.3 乾電池の交換時期 17

8.4 長時間連続使用の場合 17

8.5 充電式電池 17

9.0 操作のしかた 17

9.1 電源の入れかた 17

9.2 電源の切りかた 17

9.3 ミュートのしかた 17

9.4 ミュート解除のしかた 17

10.0 送信機使用時の設定 18

10.1 LCD表示の設定（通常モード） 18

10.2 設定メニューの選択（メニューモード） 18

10.3 送信チャンネルの設定（設定モード） 19

10.4 送信出力レベルの設定（設定モード） 19

10.5 入力レベルの設定（設定モード） 20

10.6 操作ロックの設定（設定モード） 20

10.7 入力選択の設定（設定モード） 21

10.8 出荷時の設定に戻す場合（設定モード） 21

10.9 メニューモードの終了（設定モード） 22

11.0 チャンネル組み合わせ表 22

12.0 身体への取り付けかた（ATW-T310bJのみ） 22

13.0 操作のしかた 23

14.0 安定した受信のために 23

15.0 フロントアンテナの接続方法 24

16.0 ラックマウントの方法 24

17.0 トラブルシューティング 25

18.0 テクニカルデータ 27

1.0 特長

1.1 システムの特長

- PLLシンセサイザー方式採用。B型30チャンネル切り替えが可能。
- ライブ、イベントなどステージ用に最適。

1.2 ATW-R3100bJ（レシーバー／受信機）の特長

- ダイバーシティ方式採用により、ドロップアウトの少ない安定した受信を実現。
- スタンバイ時にノイズの発生を防ぐ、トーンスケルチ回路を搭載。
- 空きチャンネルを簡単操作で探し出すチャンネルスキャン機能搭載。
- 暗い場所でも受信状態がわかるLCD表示部バックライト装備。
- 送信機のバッテリー残量状態がモニター可能。
- 付属のコネクタキットにより、アンテナのフロント取り付けが可能。

1.3 ATW-T310bJ、ATW-T341bJ（トランスミッター／送信機）の特長

共通

- バッテリー残量を液晶表示。
- パワーインジケーターに2色LED採用、ミュートのON/OFFをより視覚的に表示。
- 暗い場所でも簡単操作のできるLCD表示部バックライト装備。

ATW-T310bJ

- 誤動作防止カバー付き。
- 独立した2つのロック機構により、より強固にバッテリードアを閉じることが可能。
- 飛びが良く、柔軟性に富んだ1/4波長ホイップアンテナ。
- ラベリアマイクからヘッドウォーンマイク、さらには楽器入力に対応したマルチパーパス仕様。

ATW-T341bJ

- 破損しにくい内蔵アンテナ。
- ボディには堅牢なアルミダイキャストを採用。

2.0 安全上の注意

本製品は安全性には十分な配慮をして設計をしていますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。
事故を未然に防ぐために下記を必ずお守りください。

	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが切迫して生じる可能性があります」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

2.1 ATW-R3100bJについて

	
● AC100Vの電源で使用してください。	● 強い衝撃を与えないでください。
● ジャックに異物を入れないでください。	● 指定のACアダプター以外は使用しないでください。
● 分解や改造はしないでください。	

	
● アンテナで目を突いたりしないよう、ご注意ください。	
● 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。	
● 水がかからないようにしてください。 本機を水滴のかかる場所に置かないでください。水の入った物、花瓶などを本機の上に置かないでください。	
● 火気に近づけないでください。	
● 布などでおおわないでください。	
● 本機は電源スイッチを切ってもコンセントから供給される電源とは完全に遮断されません。長時間使用しないときは、ACアダプターの電源プラグ部をコンセントから抜いてください。長い間保存するときには、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。	
● 同梱のビニール袋は幼児の手の届かないところに置いてください。また、危険ですので、火のそばに置かないでください。	

2.2 ATW-T310bJ、ATW-T341bJについて

	
● この送信機は日本国内専用です。	
● ATW-T310bJ及びATW-T341bJは総務省の技術基準適合証明を受けており、免許不要で使用できます。	
● B型ワイヤレスマイクロホンシステムの周波数は、電波法により定められております。お近くの別の場所で同じB型ワイヤレスマイクロホンシステムを使われている場合、混信することがあります。その場合は、周波数を切り換えてお使いになるか、電源を切って使用を中止してください。	
● 本体に貼られている技術基準適合証明シールを剥がすと法規上本機を使用できなくなりますので、剥がさないようご注意ください。	
● 本体を分解して改造を行なう行為は、法規上禁止されています。また、本機は精密にできており、分解すると感電や故障、火災の原因にもなりますのでおやめください。	
● 強い衝撃を与えないでください。	
● アンテナで目を突いたりしないよう、ご注意ください(ATW-T310bJのみ)。	
● 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。	
● 水がかからないようにしてください。本機を水滴のかかる場所に置かないでください。	
● 火気に近づけないでください。	
● 長い間保存するときには、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。	
● 同梱のビニール袋は幼児の手の届かないところに置いてください。また、危険ですので、火のそばに置かないでください。	

2.3 使用上の注意

- 本機は必ず当社指定の機器との組み合わせでお使いください。
- 本システムに使われているUHF帯の電波は、波長が短く直進性が強いので、送信機と受信機間に障害物があると音切れの原因となる場合があります。送信機と受信機が見通せる位置関係でご使用ください。
- 本機は電波法に準拠して製造した日本国内専用モデルです。海外の法律には適合しておりません。海外で使用する则各国の法律により処罰されることがありますので、海外ではご使用にならないでください。

2.4 乾電池について

	
● 乾電池の液が目に入ったときは目をこすらないでください。 すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、医師の診察を受けてください。	

	
● 火の中に入れてください。加熱、分解、改造しないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。	● 硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、乾電池の+と-を接続しないでください。 ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
● 極性通りに入れてください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。	● 新しい乾電池と一度使用した乾電池、銘柄や種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
● 液漏れした乾電池はすぐに取り出し、液は素手でさわらないでください。 ・ 幼児がなめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で十分にうがいをし、医師の診察を受けてください。 ・ 皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。	● 乾電池は充電しないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
	● 使い切った乾電池はすぐに取り出してください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
	● 長期間使用しない場合は乾電池を取り出してください。 液漏れによる故障の原因になります。

	
● 乾電池の液漏れや、変色・変形、その他今までと異なることに気づいたときは使わないでください。	● 以下の場所で使用、放置、保管しないでください。 ・ 直射日光の当たる場所、高温多湿の場所 ・ 炎天下の車内 液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
● 危険ですので、乾電池を分解、改造しないでください。	● 保管、廃棄の場合は端子部をテープなどで絶縁してください。
● 使用乾電池はアルカリ・タイプをおすすめします。 使用期限をご確認ください。期限切れの場合、使用できないことがあります。	● 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
● 乾電池のタイプと使用方法によっては、電池寿命が異なる場合があります。	● 水に濡らさないでください。 発熱の原因になります。
● 外装ラベルがはがれた乾電池は使用しないでください。 ラベルを剥がさないでください。 ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。	● 指定の乾電池以外使用しないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
● 落下させたり強い衝撃を与えないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。	● 使用済みの乾電池は自治体の所定の方法で処分してください。 環境保全に配慮してください。
● 変形させたりハンダ付けしないでください。 液漏れ、発熱、破裂の原因になります。	

2.5 ACアダプターについて

⚠ 警告

- AC100V以外の電源には使用しないでください。
(日本国内専用)
加熱による火災やけがの原因になります。
- 本製品以外には使用しないでください。
加熱による火災やけがの原因になります。
- 異常に気づいたら使用しないでください。
異常な音、煙、臭いやコードなどの発熱、損傷などがありましたら、すぐにコンセントから抜き、お買い上げの販売店か当社のプロオーディオ営業部までお問い合わせください。
- コードは伸ばして使用し、釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしないでください。
加熱による火災やけがの原因になります。
- コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込んでください。
加熱による火災やけがの原因になります。
- コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。
断線、故障の原因になります。
- コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れないでください。
断線、故障の原因になります。
- 分解や改造はしないでください。
感電、故障や火災の原因になります。
- 強い衝撃を与えないでください。
感電、故障や火災の原因になります。
- 濡れた手で触れないでください。
感電やけがの原因になります。
- 布などでおおわないでください。
加熱による火災やけがの原因になります。
- プラグにたまったほこりなどは、乾いた布で定期的に拭き取ってください。
加熱による火災やけがの原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しないでください。
変形、故障の原因になります。

⚠ 注意

- 長時間使用しないときは、コンセントから抜いてください。
省エネルギーにご配慮ください。
- 足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さないでください。
故障や事故の原因になります。
- 通電中のACアダプターに長時間触れないでください。
低温やけどの原因になることがあります。

2.6 メンテナンス上の注意

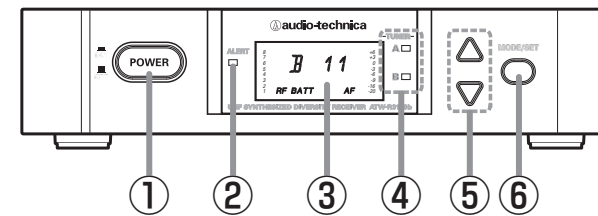
- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグあるいは乾電池を抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使わないでください。

3.0 複数のワイヤレスシステムを同時に使用するには

- 6波以内で同時使用する場合は、B型各1～6グループまでの同一グループ内でお使いください。
- 複数台同時使用の場合、送信機同士は80cm以上、送信機と受信機は3m以上離してください。
- 複数台同時使用の際は音をモニターしながら送信機の電源を順にオンにして雑音のないことをお確かめください。
- 使用時にハウリング（ピー、あるいはキーンと言う音）が発生した場合、接続しているミキサー/アンプなどの出力ボリュームを絞ってください。

4.0 ATW-R3100bJ 各部の名称と機能

4.1 正面部



① 電源スイッチ

スイッチを押し込むことで電源が入ります。
再度スイッチを押すことで電源が切れます。
* 電源を入れても約5秒間は音声出力されません。

② アラートインジケーター

このインジケーターは次の時に点灯します。

- 送信機が "電源OFF" または "MUTE" 状態にある時。
- RFレベルインジケーターの表示が2以下の時。
* RFレベルインジケーターの表示が6以上となる範囲でご使用ください。
- AFレベルインジケーターの表示が+3と点灯した時。
AFレベルインジケーターの表示が+3と常時点灯する場合は、送信機の入力レベルを調整してください。
詳しくは20ページ「10.5 入力レベルの設定(設定モード)」をご覧ください。
- 送信機のバッテリー残量が少なくなり、送信機の「BATT ■」の表示が出る時。

③ LCD表示部

RF/AFインジケーターなどの受信機の状態や設定のメニューが表示されます。
詳しくは8ページ「4.3 LCD表示部」をご覧ください。

④ TUNERインジケーター

ダイバーシティの受信状態を表示します。
アンテナAあるいはBのいずれかで電波を受信すると対応するインジケーターが点灯します。

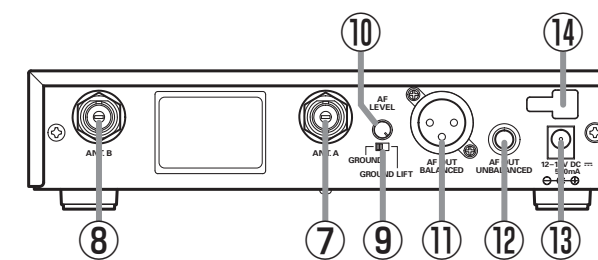
⑤ UP/DOWNボタン

LCD表示や受信機の設定を変える時に使用します。
詳しくは9ページ「6.0 受信機使用時の設定」をご覧ください。

⑥ MODE/SETボタン

LCD表示や受信機の設定を変える時に使用します。
詳しくは9ページ「6.0 受信機使用時の設定」をご覧ください。

4.2 背面部



⑦ ⑧ アンテナ端子

⑦は、アンテナA入力端子です。⑧は、アンテナB入力端子です。

⑨ グランドリフトスイッチ

バランス出力のGNDピンをグランドから切り離すスイッチです。通常は「GROUND」で使いますが、グランドループによるハム音が出る場合はスイッチを「GROUND LIFT」側に切り換えてください。

⑩ AF LEVELボリューム

音声の出力レベルを調整します。出荷時は最大に設定されています。

⑪ AF バランス出力端子 (XLR 3ピン オス)

音声のバランス出力端子です。

⑫ AFアンバランス出力端子 (φ6.3mmモノラルジャック)

音声のアンバランス出力端子です。

⑬ ACアダプター電源端子

付属のACアダプターを接続し、AC100V 50/60Hzの電源に接続してください。

* 本機には、必ず付属のACアダプターを使用してください。

⑭ ACアダプターコード抜け防止フック

ACアダプターの電源コードを1回巻いてください。
コードが引っ張られても容易に抜けなくなります。

4.3 LCD表示部

⑮ RFレベルインジケータ

受信機の受信状態を表示します。

METER HOLD 機能も設定できます。

詳しくは 13 ページ「6.7 RF/AF レベルメーターのホールド設定 (設定モード)」をご覧ください。

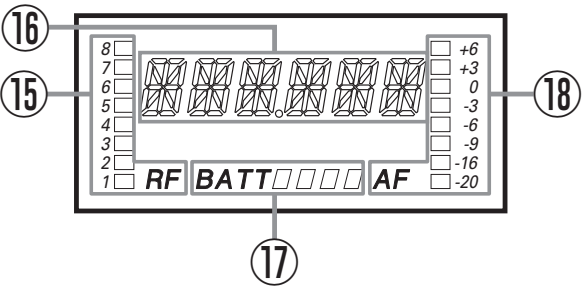
⑯ 英数字ディスプレイ

通常は設定されたチャンネルを表示します。
(これを通常モードとします)

詳しくは 9 ページ「6.1 LCD 表示の設定 (通常モード)」をご覧ください。

設定モードでは、設定メニューを表示します。

詳しくは 9 ページ「6.2 設定メニューの選択 (メニューモード)」をご覧ください。



⑰ バッテリー表示インジケータ

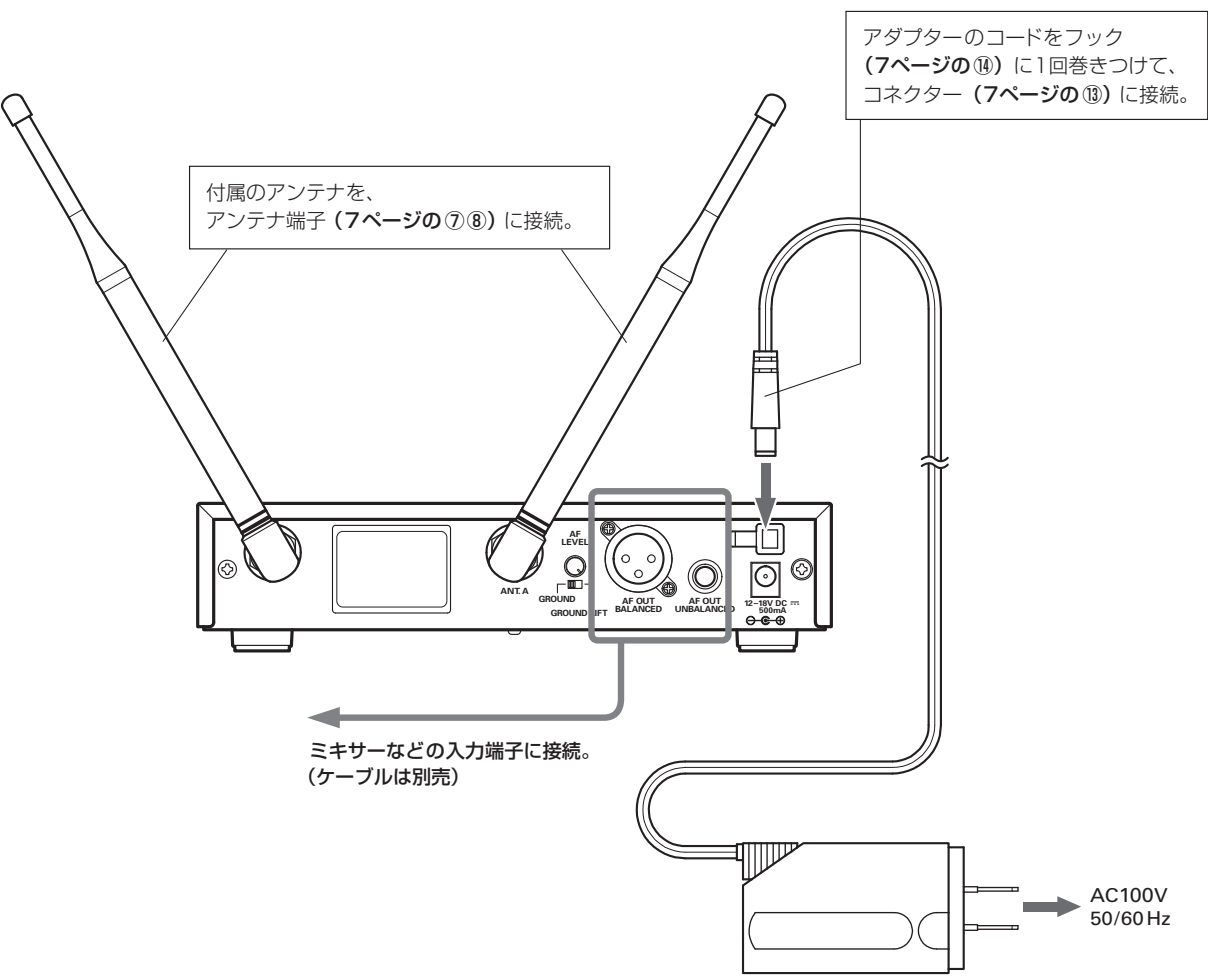
送信機のバッテリー残量を表示します。

送信機のバッテリー残量が少なくなり、送信機のバッテリー表示が「BATT ■」になると上記の「BATT」が点滅します。

⑱ AFレベルインジケータ

受信した音声信号のレベルに応じて点灯します。METER HOLD 機能も設定できます。詳しくは 13 ページ「6.7 RF/AF レベルメーターのホールド設定 (設定モード)」をご覧ください。

5.0 ATW-R3100bJ の接続方法

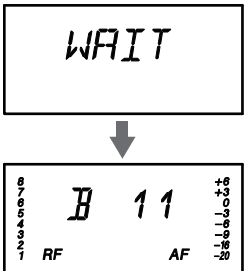


6.0 受信機使用時の設定

* これからの表示説明は初期設定時の表示内容です。

設定を変更された場合はまったく同じ表示にはならないのでご了承ください。

6.1 LCD表示の設定 (通常モード)

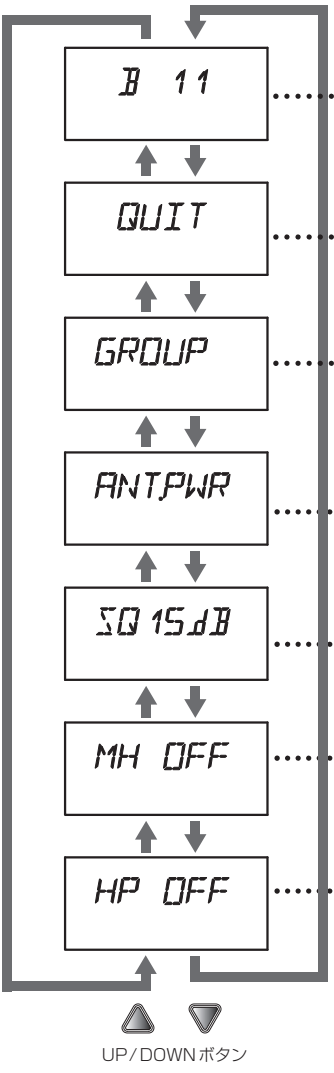


ACアダプターを接続し、電源スイッチを ON すると
英数字ディスプレイ (8 ページの ⑯) に「WAIT」と表示されます。

約3秒後、英数字ディスプレイに受信機で設定したチャンネルが表示されます。

これが使用時の通常モードの表示です。
これで受信機から音声等が出力可能な状態になります。

6.2 設定メニューの選択 (メニューモード)



現在の設定を変更したい時は、設定メニューの選択 (メニューモード) にしてください。通常モードの時に **MODE/SET** ボタン (7 ページの ⑥) を短押ししますと、メニューモードになります。
この時、英数字ディスプレイに左図の表示がされます。

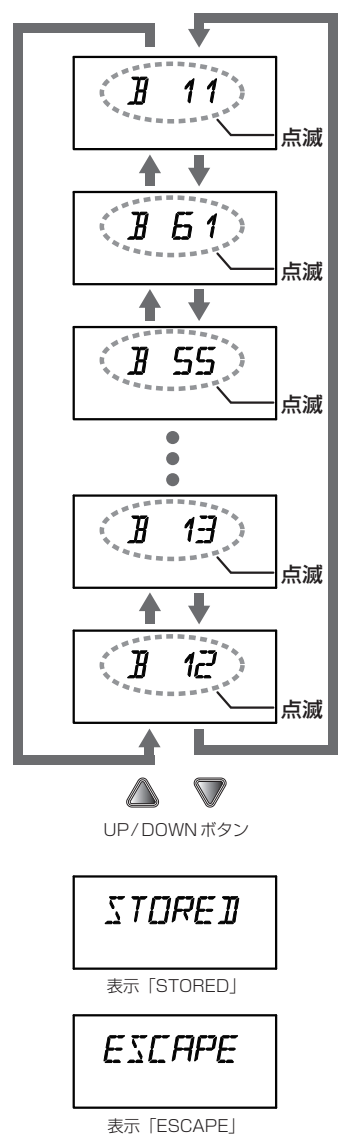
- 受信チャンネルの設定
(10 ページ 「6.3 受信チャンネルの設定 (設定モード)」 参照)
* メニューモードの最初に表示されます。
- メニューモードの終了 (通常モードに戻る)
(14 ページ 「6.10 メニューモードの終了 (設定モード)」 参照)
- 空きチャンネルスキャンの設定
(11 ページ 「6.4 空きチャンネルのスキャンモード (設定モード)」 参照)
- 外部電源供給の設定
(12 ページ 「6.5 ANT POWER アンテナ電源供給の設定 (設定モード)」 参照)
- スケルチレベルの設定
(13 ページ 「6.6 スケルチレベルの設定 (設定モード)」 参照)
- RF/AFレベルメーターの設定
(13 ページ 「6.7 RF/AFレベルメーターのホールド設定 (設定モード)」 参照)
- ハイパスフィルターの設定
(14 ページ 「6.8 ハイパスフィルターの設定 (設定モード)」 参照)

UP/DOWN ボタン (7 ページの ⑤) を押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。設定変更したいメニューを表示させ **MODE/SET** ボタンを短押しすると、各設定モードになります。

* メニューモード、各設定モードの時は、受信機から音声等は出力されません。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

6.3 受信チャンネルの設定（設定モード）



受信するチャンネルを設定します。

出荷時は「B11」に設定されています。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に現在設定しているチャンネルを表示させます。
次に **MODE/SET** ボタン（7ページの⑥）を短押しすると設定モードになり、表示されているチャンネル（左図の場合、B11）が点滅します。

UP/DOWN ボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。希望するチャンネルに合わせ、**MODE/SET** ボタンを長押しし、「STORE」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。使用できるチャンネルについては22ページ「11.0 チャンネル組み合わせ表」をご覧ください。

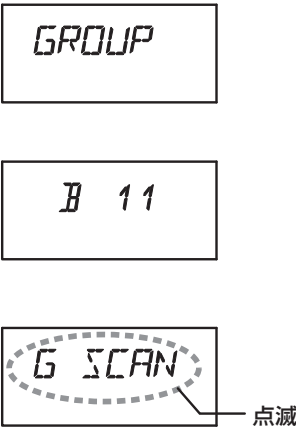
この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**MODE/SET** ボタンを短押しします。一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。
このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。
この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

6.4 空きチャンネルのスキャン（設定モード）



現在ご使用になられている周辺で未使用のチャンネルをスキャンします。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「GROUP」を表示させます。

MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押しすると設定モードになり、「B11」に表示が変わります。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、「G SCAN」の点滅表示に変わり、空きチャンネルをスキャンします。

スキャンが終了すると未使用のチャンネルが点滅表示されます。

点滅しているチャンネルを使用する場合は**MODE/SET** ボタンを長押しし、「STORE」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

点滅しているチャンネル以外のチャンネルをさらにスキャンする場合は、**UP/DOWN** ボタンを短押ししてください。「G SCAN」の点滅表示に変わり、他の空きチャンネルをスキャンします。

UP ボタンを押すと、周波数の昇順に、**DOWN** ボタンを押すと、周波数の降順にスキャンします。周波数リストは22ページ「11.0 チャンネル組み合わせ表」をご覧ください。

この一連の操作で設定変更が完了します。

スキャンを途中で中止する場合は、チャンネル表示が点滅している時に**MODE/SET** ボタンを短押ししてください。一瞬「ESCAPE」と表示が変わった後、「GROUP」の点灯表示になり、スキャンモードに戻ります。



スキャンして使用可能なチャンネルがない場合、「END」の点灯表示がされますので、**MODE/SET** ボタンを押してください。

スキャンモードに戻りますので、再度空きチャンネルを探す場合は上記操作を行ってください。

メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。
この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

*本機能は、現在ご使用になられている周辺で、まだ使用されていないチャンネルをスキャンするものです。

*このスキャンモードでスキャンするのはチャンネル組み合わせのグループに関係なく、**UP/DOWN** ボタンに合わせた周波数の昇降順ですので、特に同時使用される場合は同一グループ内でご使用になれますようご注意ください。

6.5 ANT POWER アンテナ電源供給の設定（設定モード）

ANT POWER アンテナ電源供給の設定をします。

出荷時は「POWER OFF」に設定されています。

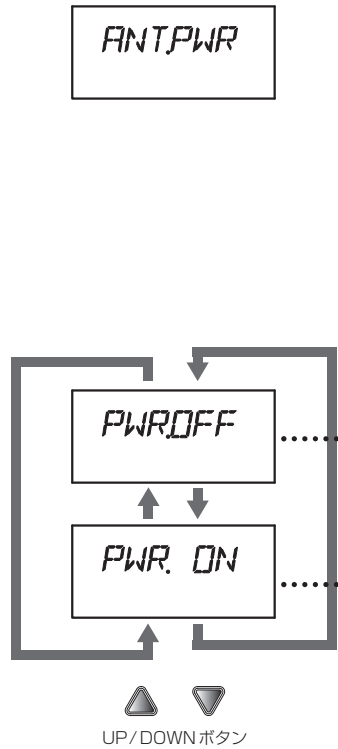
メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「ANT.PWR」を表示させます。

MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押しすると、設定モードになり「ANT.PWR」が点滅表示に変わります。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。

希望の状態に合わせ、**MODE/SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。



..... アンテナ入力端子に電源を供給しません。

* 付属のホイップアンテナや別売りのアンテナバイダーを使用する場合

..... アンテナ入力端子に電源を供給します。

* ブースター内蔵の外部アンテナを使用する場合

途中で設定を中止する時は、**MODE/SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

* 別売のATW-A82a、ATW-A800、ATW-B800などを直接接続する場合は必ず **ANT POWER ON** に設定してください。

6.6 スケルチレベルの設定（設定モード）

スケルチレベルの設定をします。

出荷時は「SQ 15dB」に設定されています。

メニューモードで、**UP/DOWN** ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「SQ 15dB」を表示させます。

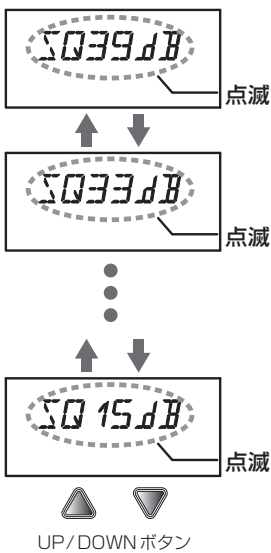
MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押しすると設定モードになり「SQ 15dB」が点滅表示に変わります。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。スケルチレベルは15dBから39dBまで6dBステップで設定可能です。

希望の状態に合わせ、**MODE/SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**MODE/SET** ボタンを短押しします。一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。



メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

* スケルチレベルが小さい時は、トランスミッターの使用範囲が広がりますが、他の電波の影響を受けて雑音が発生する場合があります。スケルチレベルを大きくしていくとトランスミッターの使用範囲が狭くなっていきますが、他の電波の影響を受けにくくなり雑音が発生しにくくなっていきます。

* 雑音や混信などが特にならない場合は、出荷時の「SQ 15dB」でご使用ください。

6.7 RF/AFレベルメーターのホールド設定（設定モード）

RF/AFレベルメーターのホールド設定をします。

出荷時は「MH OFF」に設定されています。

* RF/AFレベルメーターのホールド設定ON時、RFレベルインジケータは最も低いRFレベルを点滅表示します。AFレベルインジケータは最も高いAFレベルを点滅表示します。ホールド表示は送信機のミュート設定によりクリアされ、新たにホールド動作を開始します。

メニューモードで、**UP/DOWN** ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「MH OFF」を表示させます。

MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押しすると設定モードになり「MH OFF」が点滅表示に変わります。

UP/DOWN ボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。

希望の状態に合わせ、**MODE/SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**MODE/SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

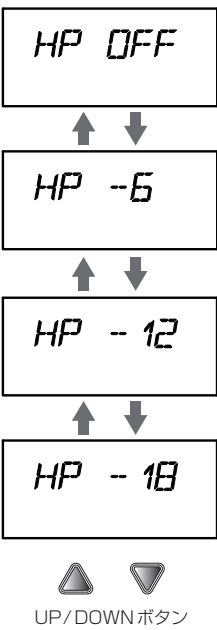
メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

6.8 ハイパスフィルターの設定（設定モード）



ハイパスフィルターの設定をします。

出荷時は「HP OFF」に設定されています。

メニューモードで、UP/DOWN ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「HP OFF」を表示させます。

MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押しすると設定モードになり「HP OFF」が点滅表示に変わります。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。

HP OFF → HP -6 → HP -12 → HP -18 の順に低音域の減衰量が大きくなります。

希望の状態に合わせ、MODE/SET ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ますので、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、MODE/SET ボタンを短押しします。一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、14ページの「6.10 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

6.9 出荷時の設定に戻す場合



すべての設定を出荷時の設定に戻します。

出荷時の設定に戻す場合は、MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を押しながら電源スイッチをONします。

英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「RESET」と表示されたら、ボタンを離してください。

6.10 メニューモードの終了（設定モード）



メニューモードを終了して通常モードに戻ります。

メニューモードで UP/DOWN ボタン（7ページの⑤）を押すことにより、英数字ディスプレイ（8ページの⑩）に「QUIT」を表示させます。

MODE/SET ボタン（7ページの⑥）を短押ししますと通常モードに戻ります。

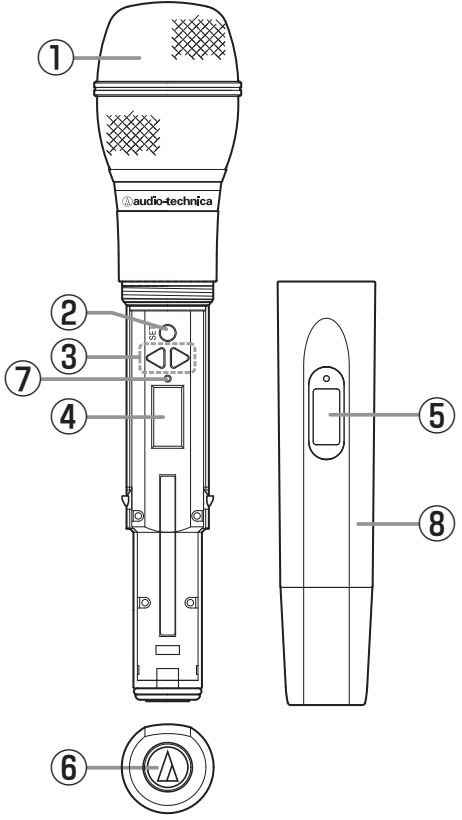
*各種設定を変更した時は、必ずメニューモードの終了をし、通常モードに戻ってください。戻るまでは受信機から音声等が出力されません。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

7.0 ATW-T310bJ、ATW-T341bJ 各部の名称と機能

7.1 本体

ATW-T341bJ



① ヘッドケース
風やポップノイズの低減、外部の衝撃からマイクユニットを守ります。

② SET ボタン
LCD 表示部の表示切り替えや送信機の設定を確定させる場合に使用します。
詳しくは18ページ「10.0 送信機使用時の設定」をご覧ください。

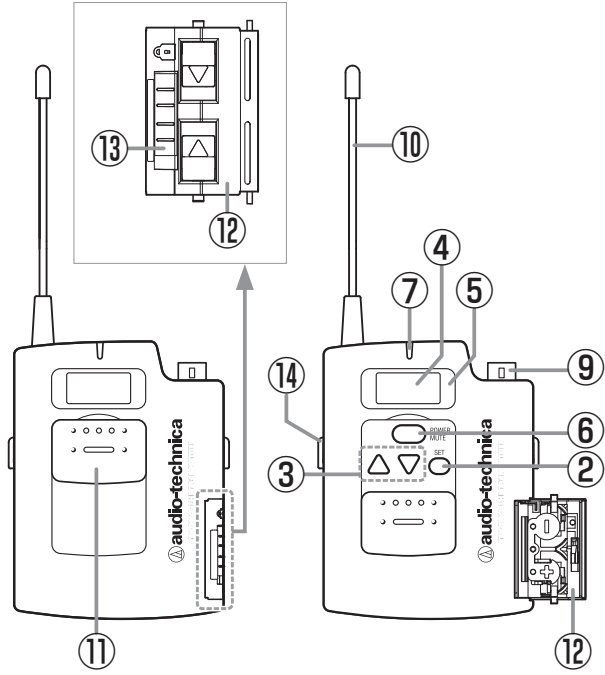
③ UP/DOWN ボタン
LCD 表示部の表示や送信機の設定を変える時に使用します。
詳しくは18ページ「10.0 送信機使用時の設定」をご覧ください。

④ LCD 表示部
送信機の状態や設定のメニューが表示されます。
詳しくは16ページ「7.2 LCD 表示部」をご覧ください。

⑤ LCD ウィンドウ
LCD 表示部を保護します。

⑥ パワー／ミュートボタン
長押しで電源を ON／OFF、短押しでミュートの ON／OFF することができます。
詳しくは17ページ「9.0 操作のしかた」をご覧ください。

ATW-T310bJ



⑦ パワーインジケーター
電源ON時に緑色に点灯、ミュート時に赤色に点灯します。

⑧ グリップケース

⑨ 入力コネクター
付属のギターケーブルや別売のヘッドウォーンマイク、弊社指定のマイクロホンなどを接続します。

ピン配列
① グランド
② 楽器入力
③ マイク入力
④ +5V出力 (コンデンサーマイク専用)

⑩ 送信用アンテナ
1／4波長ホイップアンテナです。

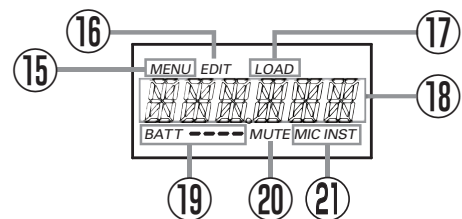
⑪ スライディング・コントロールカバー
ボタンの誤操作防止のためのカバーです。

⑫ バッテリードア
乾電池を出し入れする時に使用します。
詳しくは16ページ「8.1 ATW-T310bJの乾電池の入れかた」をご覧ください。

⑬ スライドロック
バッテリードアをロックし、容易に開くのを防ぎます。
詳しくは16ページ「8.1 ATW-T310bJの乾電池の入れかた」をご覧ください。

⑭ ベルトクリップ

7.2 LCD 表示部



⑮ MENU

メニューモードになった時、点灯します。
詳しくは 17 ページ「9.0 操作のしかた」、
18 ページ「10.0 送信機使用時の設定」をご覧ください。

⑯ EDIT

設定モードになった時、点灯します。
詳しくは 18 ページ「10.0 送信機使用時の設定」をご覧ください。

⑰ LOAD

初期設定の呼び出しになった時、点灯します。
詳しくは 21 ページ「10.8 出荷時の設定に戻す場合
(設定モード)」をご覧ください。

⑱ 英数字ディスプレイ

通常は、設定されたチャンネルを表示します。(これを通常モードとします。) 詳しくは 18 ページ「10.1 LCD 表示の設定 (通常モード)」をご覧ください。

設定モードでは、設定メニューを表示します。

詳しくは 18 ページ「10.2 設定メニューの選択 (メニューモード)」をご覧ください。

⑲ BATT

送信機のバッテリー残量を表示します。

⑳ MUTE

MUTE 状態になった時、点灯します。

詳しくは 17 ページ「9.3 ミュートのしかた」、「9.4 ミュート解除のしかた」をご覧ください。

㉑ MIC、INST

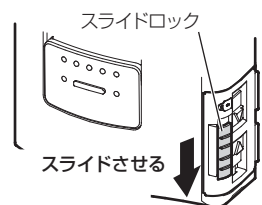
ATW-T310bJ のみ機能があります。
接続する機器に合った入力設定をします。

詳しくは 21 ページ「10.7 入力選択の設定 (設定モード)」をご覧ください。

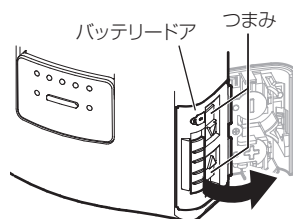
8.0 乾電池の入れかた

8.1 ATW-T310bJ の乾電池の入れかた

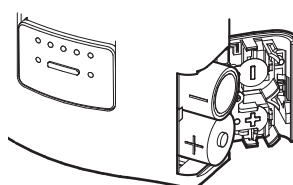
- 1 スライドロック (15 ページの ⑬) を下にスライドさせ、ロックを外します。



- 2 つまみを刻印された矢印方向に、両方スライドさせてバッテリードアを (15 ページの ⑭) 開けます。

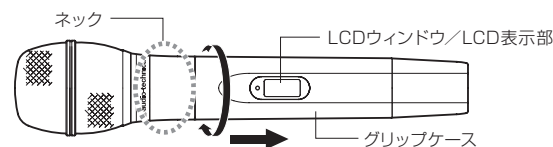


- 3 バッテリー端子の刻印通り、極性を間違えないように乾電池を入れてバッテリードアを閉じます。スライドロックを上へスライドさせ、ロックします。

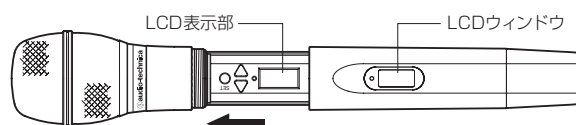


8.2 ATW-T341bJ の乾電池の入れかた

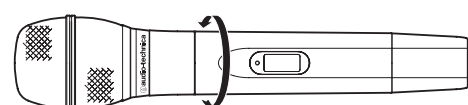
- 1 マイク本体のネック付近を持ち、LCD ウィンドウ/LCD 表示部を上にした状態でグリップケース (15 ページの ⑧) を反時計方向に 5 回転させてから、グリップケースを引き抜きます。



- 2 電池ケースに刻印されている極性に合わせて乾電池を入れ、グリップケースの LCD ウィンドウ (15 ページの ⑤) とマイク本体の LCD 表示部が合うようにグリップケースに挿入します。



- 3 マイク本体のネック付近を持ち、押し込むようにグリップケースを時計方向に止まるまで回します。



8.3 乾電池の交換時期

英数字ディスプレイ (16 ページの ⑱) に「LOW.BAT」と表示が出た場合は、早めに新しい乾電池に交換してください。

8.4 長時間連続使用の場合

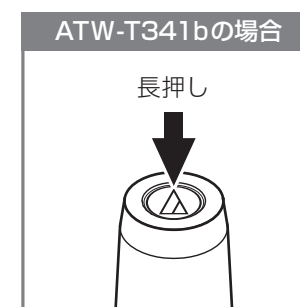
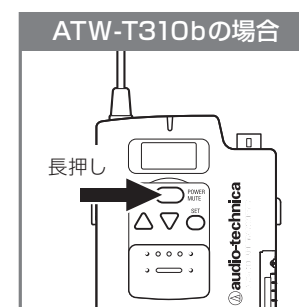
長時間連続でご使用になる場合は、新しい乾電池を使用してください。

8.5 充電式電池

寸法、形状、性能の一部が異なりますので使用できない場合があります。

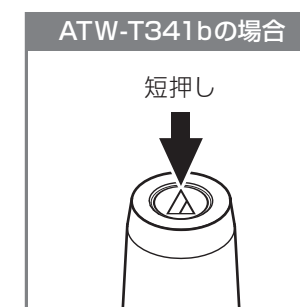
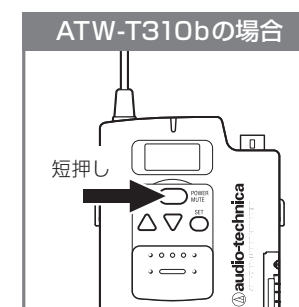
9.0 操作のしかた

9.1 電源の入れかた

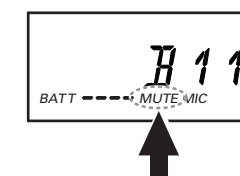


パワーインジケータ (15 ページの ⑦) が緑色に点灯するまでパワー/ミュートボタン (15 ページの ⑥) を長押しします。
電源を入れた時、約 10 秒間 LCD 表示部のバックライトが点灯します。

9.3 ミュートのしかた

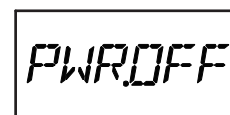


電源が入っている状態でパワー/ミュートボタン (15 ページの ⑥) を短押しします。



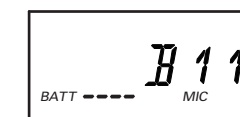
LCD 表示部の下側に「MUTE」(16 ページの ㉑) と表示され、送信機はミュート状態になります。
この時、パワーインジケータの色は緑色から赤色点灯に変わります。

9.2 電源の切りかた



英数字ディスプレイ (16 ページの ⑱) に「PWR.OFF」と表示が出るまでパワー/ミュートボタンを長押しします。

9.4 ミュート解除のしかた

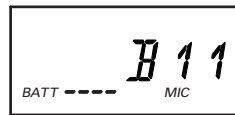


ミュート状態のときに、パワー/ミュートボタンを短押しすると「MUTE」表示が消え、ミュートが解除されます。
この時、パワーインジケータの色は赤色から緑色点灯に変わります。

10.0 送信機使用時の設定

* これからの表示説明は初期設定時の表示内容です。
設定を変更された場合はまったく同じ表示にはならないのでご了承ください。

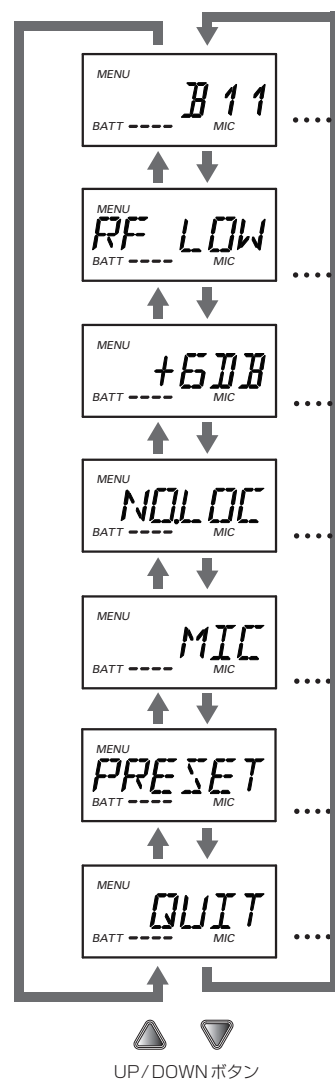
10.1 LCD表示の設定（通常モード）



電源を入ると、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に送信機で設定したチャンネルが表示されます。（出荷時の設定は「B11」です）

これが使用時の通常モードの表示です。
これで送信機から音声等が送信可能な状態になります。

10.2 設定メニューの選択（メニューモード）



現在の設定を変更したい時は、設定メニューの選択（メニューモード）にしてください。通常モードの時にSETボタン（15ページの②）を短押ししますと、メニューモードになります。メニューモード設定時は、LCD表示部のバックライトが点灯します。

「MENU」（16ページの⑮）の表示が現れます。
LCD表示は左図の表示がされます。

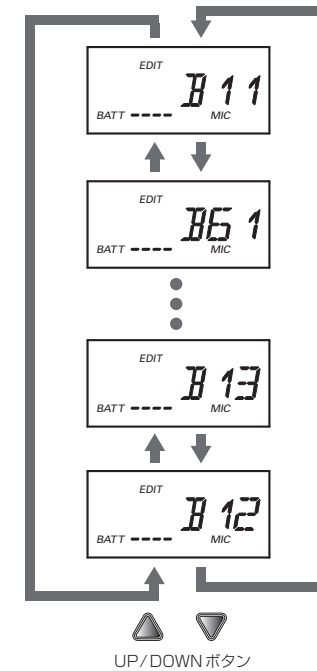
- 送信チャンネルの設定
（19ページ 「10.3 送信チャンネルの設定（設定モード）」参照）
*メニューモードの最初に表示されます。
- 送信出力レベルの設定
（19ページ 「10.4 送信出力レベルの設定（設定モード）」参照）
- 入力レベルの設定
（20ページ 「10.5 入力レベルの設定（設定モード）」参照）
- 操作ロックの設定
（20ページ 「10.6 操作ロックの設定（設定モード）」参照）
- 入力選択の設定（ATW-T310bJのみ）
（21ページ 「10.7 入力選択の設定（設定モード）」参照）
- 初期設定の呼び出し
（21ページ 「10.8 出荷時の設定に戻す（設定モード）」参照）
- メニューモードの終了（通常モードに戻る）
（22ページ 「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」参照）

UP/DOWNボタン（15ページの③）を押すことにより上図矢印の順に表示内容が変わります。設定変更したいメニューを表示させSETボタンを短押しすると、各設定モードになります。

* メニューモード、各設定モードの時は、送信機から音声等が送信可能な状態となっているため、設定変更時はミュート状態にしてください。
設定変更が完了しましたら、ミュート状態を解除してください。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了（「MENU」の表示が消灯、LCD表示部のバックライトが消灯）し、通常モードに自動的に戻ります。

10.3 送信チャンネルの設定（設定モード）



送信チャンネルを設定します。

出荷時は「B11」に設定されています。

メニューモードでUP/DOWNボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に現在設定しているチャンネルを表示させます。

次にSETボタン（15ページの②）を短押しすると設定モードになり、「MENU」（16ページの⑮）の表示が消灯し、「EDIT」（16ページの⑯）が点滅表示します。

UP/DOWNボタンを押すことにより左図矢印の順に表示内容が変わります。希望するチャンネルに合わせ、SETボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

使用できるチャンネルについては22ページ「11.0 チャンネル組み合わせ表」をご覧ください。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、SETボタンを短押しします。

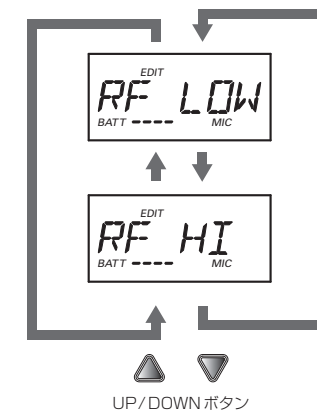
一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのでご注意ください。

10.4 送信出力レベルの設定（設定モード）



送信出力レベルの設定をします。

出荷時は「RF LOW」に設定されています。

メニューモードでUP/DOWNボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「RF LOW」を表示させます。

SETボタン（15ページの②）を短押しすると設定モードになり、「MENU」（16ページの⑮）の表示が消灯し、「EDIT」（16ページの⑯）が点滅表示します。

UP/DOWNボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。希望の状態に合わせ、SETボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、SETボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

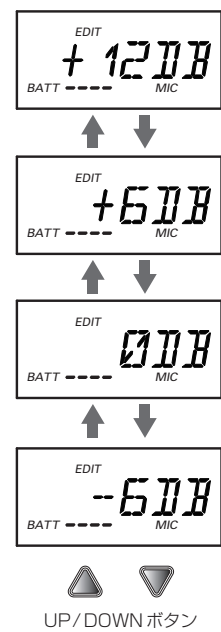
また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのでご注意ください。

* 「RF LOW」は「RF HIGH」に比べて2mWと送信出力が弱いので使用範囲が狭いですが、使用時間が8時間と長くなります。「RF HIGH」は逆に使用時間が「RF LOW」より6時間と短くなりますが、送信出力が10mWと強いので使用範囲が広がります。

10.5 入力レベルの設定（設定モード）



入力レベルの設定をします。

出荷時は「+6DB」に設定されています。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「+6DB」を表示させます。**SET** ボタン（15ページの②）を短押しすると設定モードになり、「MENU」（16ページの⑮）の表示が消灯し、「EDIT」（16ページの⑯）が点滅表示します。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。希望の状態に合わせ、**SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

数値が大きくなると、入力レベルも大きくなります。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

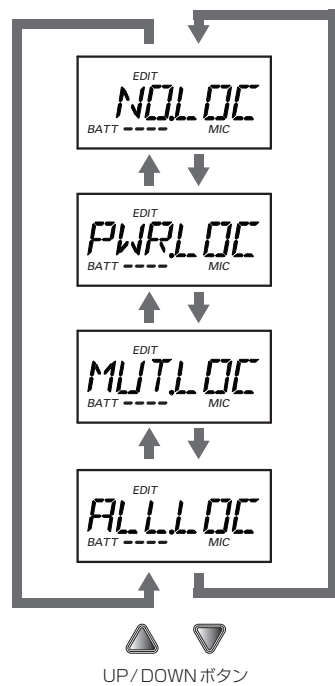
メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

10.6 操作ロックの設定（設定モード）



誤動作防止のため、操作ボタンの有効、無効の設定をします。

出荷時は「NO.LOC」に設定されています。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「NO.LOC」を表示させます。**SET** ボタン（15ページの②）を短押しすると設定モードになり、「MENU」（16ページの⑮）の表示が消灯し、「EDIT」（16ページの⑯）が点滅表示します。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。希望の状態に合わせ、**SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

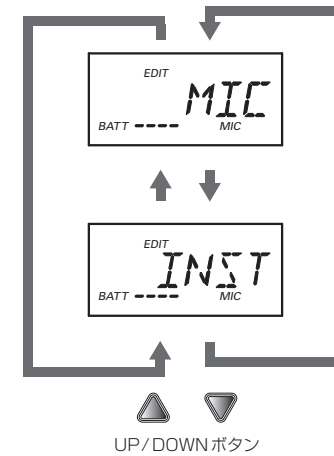
また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

* 「NO.LOC」は操作ロックを解除します。「PWR.LOC」はパワー/ミュートボタン（15ページの⑥）を長押ししても電源が切れません。「MUT.LOC」はパワー/ミュートボタンを短押ししてもミュートされません。「ALL.LOC」は操作ロック以外の設定変更ができません。

10.7 入力選択の設定（設定モード）



本設定はATW-T310bJのみあります。接続する機器に合った設定にします。
出荷時は「MIC」に設定されています。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「MIC」を表示させます。**SET** ボタン（15ページの②）を短押しすると設定モードになり、「MENU」（16ページの⑮）の表示が消灯し、「EDIT」（16ページの⑯）が点滅表示します。

UP/DOWN ボタンのいずれかのボタンを短押しすると、左図矢印の順に表示内容が変わります。希望の状態に合わせ、**SET** ボタンを長押しし、「STORED」の表示が一瞬出ましたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

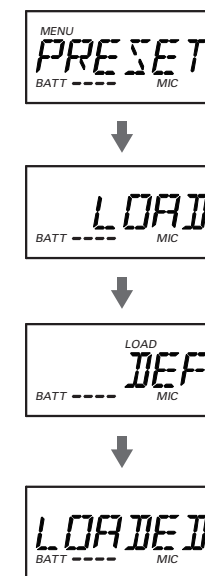
このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

弊社指定のマイクロホンなどに接続するときは「MIC」に設定してください。

付属のギターケーブルなどに接続するときは「INST」に設定してください。

10.8 出荷時の設定に戻す場合（設定モード）



出荷時の設定に戻します。

メニューモードで **UP/DOWN** ボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「PRESET」を表示させます。

SET ボタン（15ページの②）を短押しして「LOAD」を表示させます。

SET ボタンを長押ししてLCD表示に「LOAD」（16ページの⑩）と英数字ディスプレイ部に「DEF」と表示されたら、そのあとボタンを離します。さらに、**SET** ボタンを長押しして「LOADED」と表示されたら、そのあとボタンを離します。

この一連の操作で設定変更が完了します。

途中で設定を中止する時は、**SET** ボタンを短押しします。

一瞬、「ESCAPE」が表示され、設定モードからメニューモードに戻ります。

メニューモードを終了するには、22ページの「10.9 メニューモードの終了（設定モード）」をご覧ください。

また、この設定モードになった状態で 約30秒間ボタン操作を行わないと、メニューモードに自動的に戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

この時、設定変更が完了していない内容は保存されないのご注意ください。

10.9 メニューモードの終了（設定モード）



メニューモードを終了して通常モードに戻ります。

メニューモードでUP/DOWNボタン（15ページの③）を押すことにより、英数字ディスプレイ（16ページの⑩）に「QUIT」を表示させます。

SETボタン（15ページの②）を短押ししますと通常モードに戻ります。

このメニューモードの時、約30秒間ボタン操作を行わないと強制終了し通常モードに自動的に戻ります。

11.0 チャンネル組み合わせ表

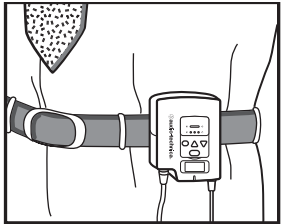
本機はB型30チャンネル選択可能です。下記周波数表をご覧ください。

グループ1		グループ2		グループ3		グループ4		グループ5		グループ6	
チャネル	周波数 (MHz)	チャネル	周波数 (MHz)	チャネル	周波数 (MHz)	チャネル	周波数 (MHz)	チャネル	周波数 (MHz)	チャネル	周波数 (MHz)
B11	806.125	B21	806.250	B31	806.625	B41	806.750	B51	807.625	B61	807.250
B12	806.375	B22	806.500	B32	806.875	B42	807.500	B52	808.125		
B13	807.125	B23	807.000	B33	807.375	B43	808.000	B53	808.375		
B14	807.750	B24	807.875	B34	808.250	B44	809.125	B54	808.750		
B15	809.000	B25	808.500	B35	808.625	B45	809.375	B55	809.625		
B16	809.500	B26	808.875	B36	809.250	B46	809.750				

同時に複数台使用の際は、同一グループ内でチャンネルを選んでください。

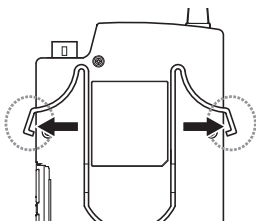
違うグループのチャンネルを用いて、同時に複数台使用しますと、混信状態になり使用できなくなります。

12.0 身体への取り付けかた（ATW-T310bJのみ）



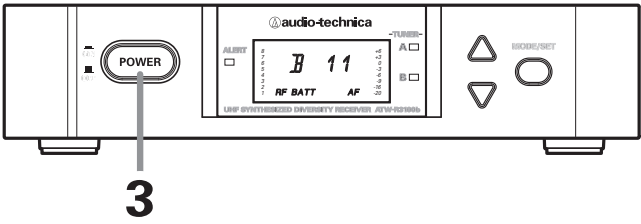
ベルトクリップ（15ページの⑭）を使用してベルトなどにはさみ込みます。

ベルトクリップを逆方向に取り付けると入力コネクタの向きを逆にすることができます。



ベルトクリップを本体から外す時は、ベルトクリップの両側を強く外側へ引いてください。

13.0 操作のしかた



- 1** 受信機に、アンテナ、ACアダプター、接続する機器への接続をします。

（詳しくは 8ページ「5.0 ATW-R3100bJの接続方法」をご覧ください。）
- 2** 受信機のAF LEVEL ボリューム(7ページの⑩)を最小にしてください。
- 3** 受信機の電源スイッチをONして、電源を入れます。
- 4** 受信機のチャンネルを選択し、設定します。

（詳しくは 10ページ「6.3 受信チャンネル設定（設定モード）」をご覧ください。）
- 5** ATW-T310bJは使用する機器への接続をします。そのあと、各送信機の電源スイッチを入れます。

（詳しくは 17ページ「9.1 電源の入れかた」をご覧ください。）

送信機のチャンネルを受信機のチャンネルに合わせてください。

（詳しくは 19ページ「10.3 送信チャンネルの設定（設定モード）」をご覧ください。）
- 6** 受信機のTUNER インジケータのA/Bのどちらかが点灯することを確認してください。

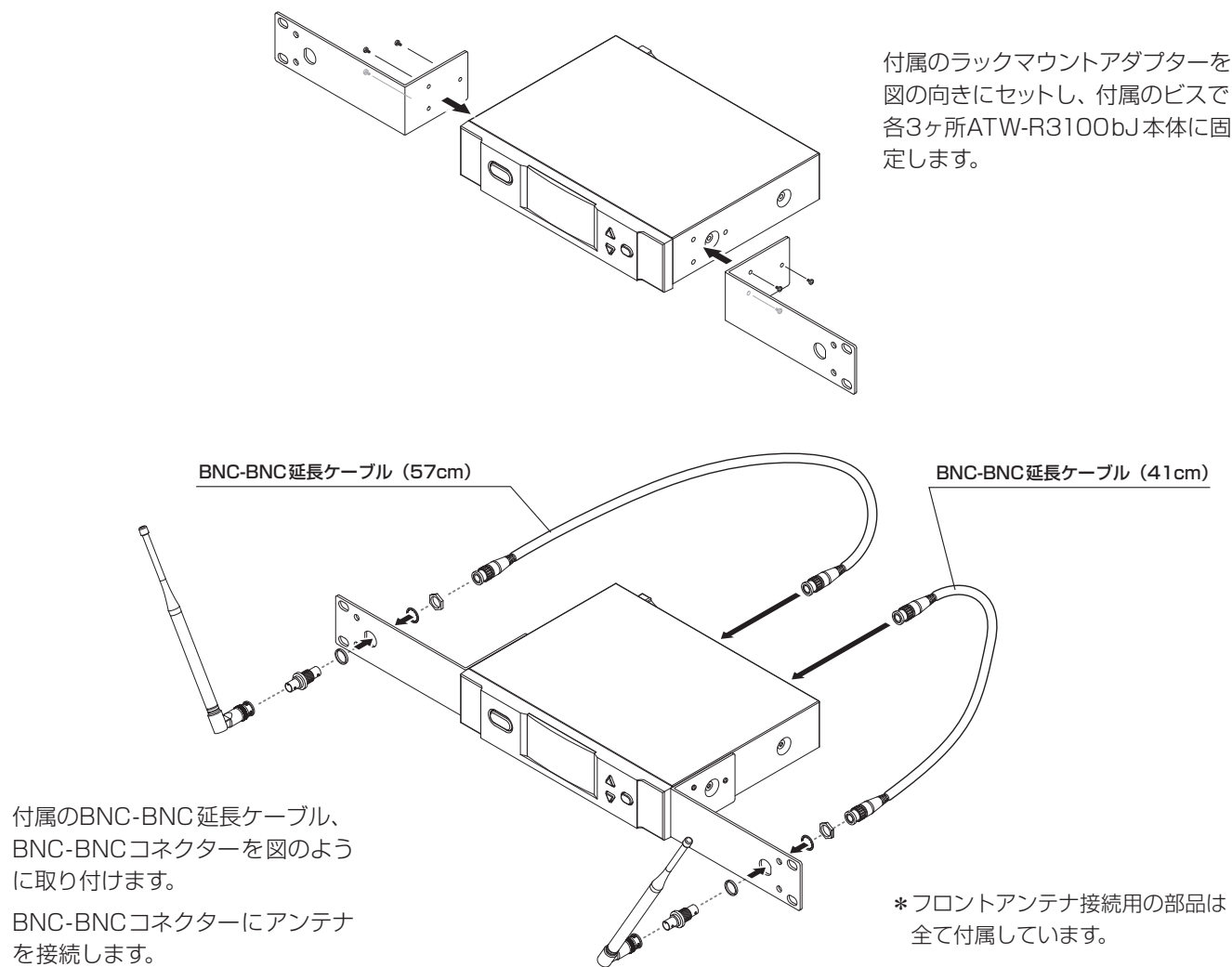
RFレベルインジケータ、バッテリー表示インジケータが点灯することを確認してください。
- 7** 送信機に音声を入れながら、受信機のAF LEVELボリュームを少しずつ上げて適度な音量にして使用してください。

14.0 安定した受信のために

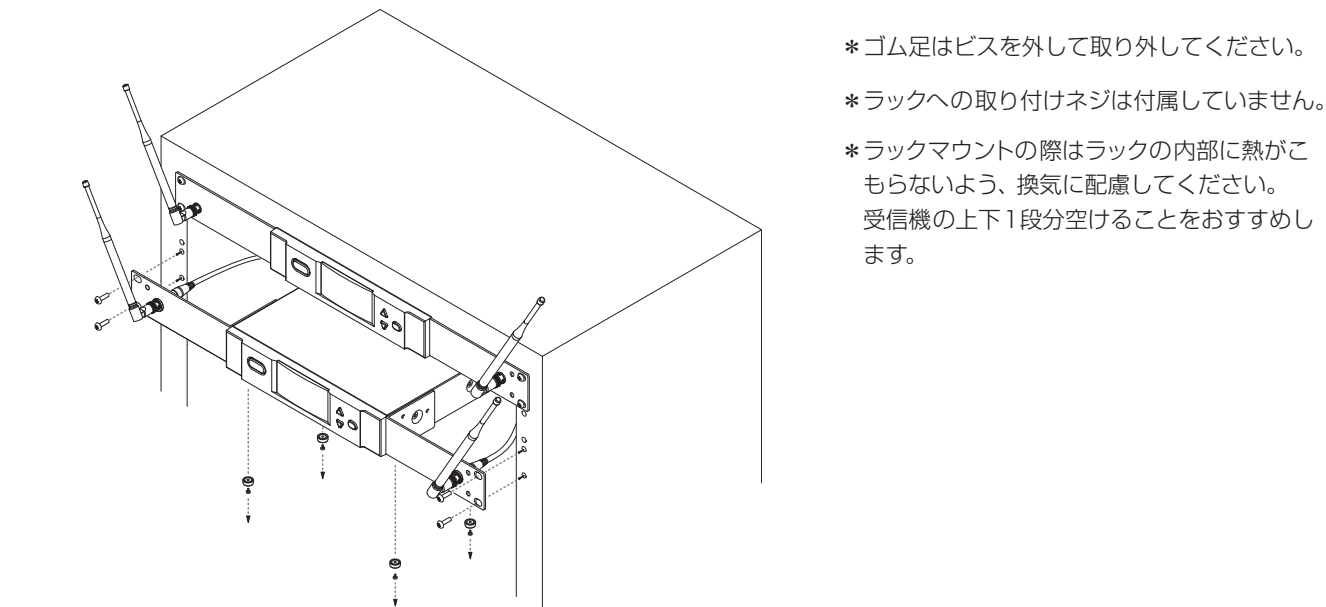
受信機のアンテナと送信機の間に障害物があると、電波が十分届かない場合があります。

見通しの良い場所に設置してください。設置場所が限定される場合はフロントアンテナ接続をお試しください。

15.0 フロントアンテナの接続方法



16.0 ラックマウントの方法



17.0 トラブルシューティング

○受信機の電源スイッチをONにしてもLCD表示部が点灯しない。 ACアダプターのプラグが外れていませんか？ → ACアダプターをきちんと接続して再度電源スイッチをONにしてください。 (8ページ「5.0 ATW-R3100bJの接続方法」をご参照ください)
○送信機の電源スイッチをONにしてもLCD表示部が点灯しない。 乾電池が入っていますか？ → 乾電池を入れてから電源スイッチをONにしてください。(16ページ「8.0 乾電池の入れかた」をご参照ください) 乾電池が消耗していませんか？ → 新しい乾電池に交換して電源スイッチをONにしてください。(16ページ「8.0 乾電池の入れかた」をご参照ください) 乾電池が正しい向きに入っていますか？ → 乾電池を正しい向きに入れ直して電源スイッチをONにしてください。 (16ページ「8.0 乾電池の入れかた」をご参照ください)
○送信機の電源スイッチをONにして、すぐに「LOW.BAT」の表示が出て、すぐパワーインジケーターが消える。 乾電池が消耗していませんか？ → 新しい乾電池に交換して電源スイッチをONにしてください。(16ページ「8.0 乾電池の入れかた」をご参照ください)
○音が出ない。音声が小さい。 ATW-R3100bJ、T310bJ、T341bJ 共通の確認 受信機、送信機のチャンネルが違っていませんか？ → 受信機、送信機のチャンネルを合わせてください。(10ページ「6.3 受信チャンネルの設定(設定モード)」、19ページ「10.3 送信チャンネルの設定(設定モード)」をご参照ください) ATW-R3100bJ の確認 電源スイッチがOFFになっていませんか？ → 電源スイッチをONにしてください。(9ページ「6.1 LCD表示の設定(通常モード)」をご参照ください) メニューモード、設定モードになっていませんか？ → メニューモード、設定モードを終了して、通常モードに戻ってください。 (14ページ「6.10 メニューモードの終了(設定モード)」をご参照ください) アンテナが外れていませんか？ → アンテナを接続してください。 (8ページ「5.0 ATW-R3100bJの接続方法」、24ページ「15.0 フロントアンテナの接続方法」をご参照ください) ミキサーなどの機器と受信機との接続が外れていませんか？ → ミキサーなどの機器ときちんと接続してください。(8ページ「5.0 ATW-R3100bJの接続方法」をご参照ください) AF LEVELボリュームが最小になっていませんか？ → ボリュームを徐々に大きくして、適度な音量に調整してください。(23ページ「13.0 操作のしかた」をご参照ください) ATW-T310bJ、T341bJ 共通の確認 電源スイッチがOFFになっていませんか？ → 電源スイッチをONにしてください。(17ページ「9.1 電源の入れかた」をご参照ください) ミュート状態になっていませんか？ → ミュート状態を解除してください。(17ページ「9.4 ミュート解除のしかた」をご参照ください) 送信機の入力レベル設定が小さくなっていませんか？ → 入力レベル設定を適切にしてください。(20ページ「10.5 入力レベルの設定(設定モード)」をご参照ください) ATW-T310bJ のみの確認 マイクロホンもしくは付属のギターケーブルが外れていませんか？ → マイクロホンもしくは付属のギターケーブルをきちんと接続してください。 なお、弊社指定以外のケーブルをご使用になった場合の動作保証は致しかねます。 (23ページ「13.0 操作のしかた」をご参照ください)

入力選択設定 (MIC/INST) が間違っ た 設定になっていませんか？ → 正しい入力選択を行ってください。(21ページ「10.7 入力選択の設定 (設定モード)」をご参照ください)
ギターなどの楽器本体の出力ボリュームが最小になっていませんか？ → ギターなどの楽器本体の出力ボリュームを徐々に大きくして、適度な音量に調整してください。
その他の確認
受信機に接続しているミキサーなどの機器の音声出力ボリュームが小さくなっていませんか？ → 接続している機器の音声ボリュームを徐々に大きくして、適度な音量に調整してください。 (接続している機器の取扱説明書をご参照ください)

○音が歪む、あるいは音に伸びがない。
ATW-R3100bJ の確認
AF LEVELボリュームが大きすぎませんか？ → AF LEVELボリュームを絞って適度な音量に調整してください。(23ページ「13.0 操作のしかた」をご参照ください)
ATW-T310bJ、T341bJ 共通の確認
送信機の入力レベル設定が大きすぎませんか？ → 送信機の入力レベルを小さくして、適度な音量に調整してください。 (20ページ「10.5 入力レベルの設定 (設定モード)」をご参照ください)
その他の確認
接続している機器のレベルが大きすぎませんか？ → 接続している機器のレベルを小さくして、適度な音量に調整してください。 (接続している機器の取扱説明書をご参照ください)

○ノイズが出る。
ATW-R3100bJ、T310bJ、T341bJ 共通の確認
受信機、送信機の近くに蛍光灯や電気機器などのノイズ発生源はありませんか？ → 受信機、送信機をノイズ発生源から離して使用してください。
異なるグループ間で同時に複数台使用していませんか？ → 異なるグループ間で同時に複数台使用しないでください。 (22ページ「11.0 チャンネル組み合わせ表」をご参照ください)
ATW-R3100bJ の確認
受信機 の出力端子からの接続がぐらぐらと不安定ではないですか？ → 出力端子の接続をきちんと接続してください。
受信機をノイズの多い機器と同じコンセントから電源を取っていませんか？ → 電源を通じてノイズが出る場合がありますので、違うコンセントから電源を取ってください。
ATW-T310bJ、T341bJ 共通の確認
送信機の入力レベル設定が大きすぎませんか？ → 送信機の入力レベルを小さくして、適度な音量に調整してください。 (20ページ「10.5 入力レベルの設定 (設定モード)」をご参照ください)
その他の確認
近くで同じ周波数帯のワイヤレスシステムを使用していませんか？ → スケルチレベルを調整してください。(13ページ「6.6 スケルチレベルの設定 (設定モード)」をご参照ください)

18.0 テクニカルデータ

規格	ATW-R3100bJ	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式	
受信周波数	806.125～809.750MHz (B型 30チャンネル)	
受信チャンネル	30チャンネルのうち1チャンネル	
受信感度	24dB μ V (SN比 60dB、周波数偏移 $\pm$ 5kHz)	
総合歪率	1%以下 (60dB μ V入力、1kHz、周波数偏移 $\pm$ 10kHz)	
SN比	110dB (60dB μ V入力、1kHz、周波数偏移 $\pm$ 35kHz)	
中間周波数	1st	243.950MHz
	2nd	10.7MHz
オーディオ出力レベル		XLRバランス $-$ 24dBV (1kHz、周波数偏移 $\pm$ 5kHz、10k Ω 負荷)
		ϕ 6.3mmアンバランス $-$ 26dBV (1kHz、周波数偏移 $\pm$ 5kHz、10k Ω 負荷)
ANT POWER供給電圧	DC10～12V、60mA Max (各ANT入力端子)	
アンテナ入力端子	BNC型 (50 Ω)	
オーディオ出力端子	XLR3ピン オス (バランス)	
	ϕ 6.3モノラルジャック (アンバランス)	
動作温度範囲	5℃～45℃	
電源	AC100V 50/60Hz (付属のACアダプターを使用、日本国内専用)	
消費電力	4W	
外形寸法	210 (幅) $\times$ 44 (高さ) $\times$ 164 (奥行き) mm (突起物、ゴム足を除く)	
質量	1.1kg	

規格	ATW-T310bJ		ATW-T341bJ
発信方式	水晶制御PLLシンセサイザー方式		
発信周波数	806.125～809.750MHz (B型 30チャンネル)		
電波形式	F9W		
トーン信号	31.25kHz		
空中線電力	10mW (RF HI)、2mW (RF LOW)		
最大周波数偏移	$\pm$ 40kHz		
コンパンダー	1/2 対数圧縮		
周波数特性	70～15,000Hz		
コンデンサーマイク供給電源	5V		
アンテナ	1/4 λ ホイップアンテナ		内蔵
最大入力レベル	MIC INPUT	$-$ 2dBV (36kHz Dev. ATT $-$ 6dB)	142dBSPL (ATT $-$ 6dB時)
	INST INPUT	+12dBV (36kHz Dev. ATT $-$ 6dB)	
マイクロホン形式			ダイナミック型 (カーディオイド)
電源	DC3V (単3形乾電池 $\times$ 2本)		
動作温度範囲	5℃～45℃		
電池寿命 (アルカリ電池使用時*使用条件による)	6時間 (RF HI)、8時間 (RF LOW)		
消費電流 (DC3V時)	160mA (RF HI)、140mA (RF LOW)		
外形寸法 (突起物を除く)	66.0 $\times$ 87.1 $\times$ 24.0mm		ϕ 48.0 (最大) $\times$ 237.0 (全長) mm
質量 (乾電池除く)	81g		265g